

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

総括研究報告書

人工知能を活用した行動・心理症状の予防と早期発見、適切な対応方法を提案する認知症対応支援システムの開発と導入プログラムに関する研究

研究代表者 小川朝生 国立研究開発法人国立がん研究センター  
先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長

**研究要旨** 本研究の目的は、全国の認知症ケアチーム・緩和ケアチームによる認知症高齢者への評価・対応を学習モデルとした人工知能を開発し、有効性の検証された教育プログラムと安全な運用プログラムとあわせて検証・実装することにより、病院を中心とする看護・介護の現場での認知機能の低下やせん妄の予防・早期発見、行動心理症状への適切な対応方法を確立する点にある。上記目標を達成するために、本年度は急性期医療における認知症対応の実態調査、教育研修の効果の検討をすすめながら、AI システムの開発を行った。その結果、急性期医療において入院中の ADL 低下を防ぐための介入の必要性を明らかにした。今後、AI システムを用いたせん妄の発症予測システムの開発を進める予定である。

**研究分担者氏名・所属研究機関名及び  
所属研究機関における職名**

小川朝生	国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長
平井 啓	大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
谷向 仁	京都大学大学院医学研究科 准教授
高橋 晶	筑波大学医学医療系災害地域精神医学 准教授
中西三春	公益財団法人 東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター 主席研究員
井上真一郎	岡山大学大学院 助教
上村恵一	国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科 科長
深堀浩樹	慶應義塾大学看護医療学部 教授
榎戸正則	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 医員
竹下修由	国立がん研究センター東病院（臨床研究支援部門 機器開発推進部）機器開発推進室 室長

緩和ケアチームによる認知症高齢者への評価・対応を学習モデルとした人工知能を開発し、有効性の検証された教育プログラムと安全な運用プログラムとあわせて検証・実装することにより、病院を中心とする看護・介護の現場での認知機能の低下やせん妄の予防・早期発見、行動心理症状への適切な対応方法を確立する点にある。

認知症高齢者の多くは、身体的問題を持ちつつ過している。そのため、認知機能の低下や行動心理症状の評価・対応を行う上で、身体疾患やせん妄、痛み等の身体的苦痛、薬剤を含めた評価が必要である。しかし、包括的な評価と判断は臨床経験に基づく個別判断が中心で、手法が確立していない現状がある。後期高齢者の増加を迎え、認知症高齢者の行動的な変化と共に、身体的な治療や身体症状の変化をとらえ、精神症状や薬物とあわせて評価判断する専門的知識と臨床経験の普及が緊急の課題である。

わが国では、認知症施策推進大綱において、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供（循環型の仕組み）体制の構築を目標に掲げ認知症ケアチームの設置を進めている。しかし、人材・医療経済的な面での限界がある。本研究は、人材・医療経済的な面での限界を補い、一般病院における認知症対

**A. 研究目的**

本研究の目的は、全国の認知症ケアチーム・

応力の向上に資することを目指している。

## B. 研究方法

### 1. 認知症ケアチーム・病棟看護師に対する AI 支援システムの開発

1) 深層学習教師データの収集を目指した認知症ケアチーム症例レジストリの構築 認知症の人の一般診療場面における身体症状・精神症状評価とそれに対応した介入・支援とその結果を包括的に収集し、機械学習に向けた症例レジストリを構築する。具体的には、認知機能低下、せん妄の予防・早期発見と対応、行動心理症状の対応を主たる標的とする。

認知症ケアチームを経験する専門医、老年看護・精神看護の専門家、介護専門職、AI 技術開発チームによるパネルを作り、わが国の急性期医療における認知症対応の実態把握を行う。

### 2. AI システム支援を導入した一般病棟での認知症対応プログラムの試行

AI 支援システムと、教育プログラムを連携させ、効果的なケアを実践するための運用プログラムを開発しその有効性を検討する。

#### 1) 多職種による教育プログラムの効果検証

すでに開発済みである多職種教育プログラムの効果検証を行う。同時に教育後の実装過程を質的に評価し、運用上の課題を抽出し、AI 支援システムの課題設計に反映させる。

#### (倫理面への配慮)

本研究のプロトコルは、倫理審査委員会の審査を受け、研究内容の妥当性、人権および利益の保護の取り扱い、対策、措置方法について承認を受けることとする。インフォームド・コンセントには十分に配慮し、参加もしくは不参加による不利益は生じないことや研究への参加は自由意思に基づくこと、参加の意思はいつでも撤回可能であること、プライバシーを含む情報は厳重に保護されることを明記し、書面を用いて協力者に説明し、書面にて同意を得る。

本研究では、認知機能障害のある患者も対象としており、研究参加のインフォームド・コンセントに際して十分な同意能力がない場面が生じ得る可能性がある。しかし、これらの患者を本研究から除外することは、認知機能障害をもたない患者のみの登録となるなど偏りが生じ、臨床に沿った意義や検討が難しくなる。一方、本研究における介入は通常診療ですでに提供されており、予測される有害事

象として身体的問題が生じる可能性はないと考えられる。

以上の理由により、本研究に対する患者の理解が不十分と研究者が判断した時は、その場合、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、代諾者から同意を得て実施する。代諾者からインフォームド・コンセントを受けた場合であっても、調査期間中に本人に説明する機会を持ち、インフォームド・コンセントならびにアセントを得るよう努める。

## C. 研究結果

### 1. 認知症ケアチーム・病棟看護師に対する AI 支援システムの開発

#### 1) AI 支援システムの開発

認知症の人の一般診療場面におけるせん妄・BPSD の予防・早期発見と対応を主たる標的とした AI 支援システムの検討を進め、①入院時の状況からせん妄の発症を予測するモデルを中心に開発を行った。3013 症例の DPC データ、せん妄アセスメントシート、せん妄テンプレートを教師用データとして使用し、ランダムフォレストを用いてせん妄の発症を予測する AI モデルの構築をおこなった。データの 80% を使用して機械学習によるせん妄発症予測モデルを作成し、残りの 20% で制度を評価したところ、正確度 84.4%、感度 84.6% を達成した。各説明変数の重要度として、せん妄の既往の有無、CRE、認知症または認知機能低下の有無などが上位であった。

#### 2) 技術導入に対する医療従事者と当事者・家族の認識の比較

新型コロナウイルス感染症の拡大により、国際プロトコルの変更が必要となり、認知症当事者、家族ならびに医師への対面を前提とした調査は、感染予防の観点から延期となった。

医師、当事者、家族の調査票について英語版の内容を確定し、翻訳・逆翻訳のプロセスを経て、日本語版の調査票を確定した。

#### 3) 一般病院における認知症対応の実態把握

認知症ケアチームにおいて、また認知症対応に関わる看護師において、実際のケースからその症状と対応のデータ集積を行うことが重要である。事例収集の前に全体を把握することを目的に、日本総合病院精神医学会や関連団体の認知症委員会と連携して、一般病院

の認知症ケアチームを対象とした活動調査を立案、調査票を確定させた。

臨床実態の把握に関しては、72施設の予備解析から308施設に拡大して解析を行った。2016年4月から2019年3月までの期間に、認知症ケア加算を算定している施設において、入院契機病名が肺炎・誤嚥性肺炎で入退院した患者で、65歳以上、入院前が自宅・介護施設、入院日に点滴・中心静脈カテーテルを挿入している患者を対象とした。身体拘束の全日・一部の期間実施は、入院期間、退院時のBarthel Indexの低下と関連し、一部の期間の拘束は、施設入所、死亡率の上昇と関連した。

安全で効果的な看護手法の開発の一助として、①身体拘束の是非が争われた裁判例の分析、②身体拘束に関する判例に関する医学論文の検討、③認知症の専門病棟からの退院を促進する手法についての文献検討を行った。裁判例については、分析の枠組みを確定させた。

## 2. AIシステム支援を導入した一般病棟での認知症対応プログラムの試行

実施可能性試験を踏まえ、検証計画の検討を行った。多施設試験を予定していたが、COVID-19の感染拡大から、施設訪問ならびに多施設からの集合研修の開催が、感染リスク上困難なことから、オンラインでの研修プログラムへの修正を検討した。あわせて、身体拘束に関する研修プログラムの構成を固めた。

## D. 考察

本年度は、わが国の急性医療における認知症対応の実態把握をDPCデータからすすめるのとあわせて、現状把握の方向性を専門家パネルで検討した。DPCデータより、認知症を有する患者は、認知症を有しない患者と比較して、退院時ADLが有意に低いこと、その背景に身体拘束も一因であることが明らかとなり、急性期医療においてADLの低下を防ぐための介入を開発する必要性が高いことが示唆された。

あわせて、認知症と併発することの多いせん妄に対する介入を進展させるために、AIシステムを用いたせん妄発症予測が可能かどうかの検討を開始した。

AIシステムを含めて、最終的には教育をあわせた臨床介入により診療の質の向上を図る

必要がある。わが国においては認知症ケアに関する教育効果で確立したものがなかった。しかし、われわれが開発した行動科学の手法を用いた教育プログラムは、3時間の短時間介入ながら、3ヶ月後にも有意な知識の増加と自信の増加を認めた。今後、アウトカムへの影響についても検討を進める予定である。

## E. 結論

本年度は急性期医療における認知症対応の実態把握をすすめながら、AIシステムの応用可能性、臨床介入の効果検証を行った。その結果、急性期医療において入院中のADL低下を防ぐための介入の必要性を明らかにした。今後、AIシステムを用いたせん妄の発症予測システムの開発を進め、臨床介入に組み込み、効果検証を進める予定である。

## F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

## G. 研究発表

論文発表（英語論文）

1. Nakazawa Y, Takeuchi E, Miyasita M, Sato K, Ogawa A, Kinoshita H, Kizawa Y, Morita T, Kato M. A Population-Based Mortality Follow-Back Survey Evaluating Good Death for Cancer and Noncancer Patients: A Randomized Feasibility Study. *Journal of Pain and Symptom Management*. 2021;61(1):42-53. e2.
2. Nakanishi M, Ogawa A, Nishida A. Availability of home palliative care services and dying at home in conditions needing palliative care: A population-based death certificate study. *Palliative Medicine*. 2020;34(4):504-12.
3. Matsuda Y, Maeda I, Morita T, Yamauchi T, Sakashita A, Watanabe H, Ogawa A. et al. Reversibility of delirium in Ill-hospitalized cancer patients: Does underlying etiology matter? *Cancer Medicine*. 2020;9(1):19-26.
4. Maeda I, Ogawa A, Yoshiuchi K, Akechi

- T, Morita T, Oyamada S, et al. Safety and effectiveness of antipsychotic medication for delirium in patients with advanced cancer: A large-scale multicenter prospective observational study in real-world palliative care settings. *Gen Hosp Psychiatry*. 2020;67:35-41.
5. Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women. *Patient Educ Couns*. 2020;103(2020):2555-5264.
  6. Hashiguchi Y, Muro K, Saito Y, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Ogawa A, et al. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2019 for the treatment of colorectal cancer. *International Journal of Clinical Oncology*. 2020;25(1):1-42.
  7. Tomoko Matsui, Kei Hirai, Yasuyuki Gondo, Shinichi Sato: Understanding help-seeking behavior in relation to psychosocial support services among Japanese cancer patients. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 2020. vol50(10), 1175-1181.
  8. Hiroyoshi Adachi, Asayo Yamamura, Nanako Nakamura-Taira, Hitoshi Tanimukai, Ryohei Fujino, Takashi Kudo, Kei Hirai. Factors that influence psychiatric help-seeking behavior in Japanese university students. *Japanese Asian Journal of Psychiatry*. 2020. June:51.
  9. Tomoko Matsui, Kei Hirai, Masako Shokoji, Naoko Kanai, Arika Yoshizaki, Naoko Wada, Naoshi Ito, Madoka Tokuyama : Problems, goals and solutions reported by cancer patients participating in group problem-solving therapy. *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 2019. vol.49(3), 245-256.
  10. Morimura N, Mizobata Y, Sugita M, Takeda S, Kiyozumi T, Shoko T, Inoue Y, Otomo Y, Sakurai A, Koido Y, Tanabe S, Okumura T, Yamasawa F, Tanaka H, Kinoshi T, Kaku K, Matsuda K, Kitamura N, Hayakawa T, Kuroda Y, Kuroki Y, Sasaki J, Oda J, Inokuchi M, Kakuta T, Arai S, Sato N, Matsuura H, Nozawa M, Osamura T, Yamashita K, Okudera H, Kawana A, Koshinaga T, Hirano S, Sugawara E, Kamata M, Tajiri Y, Kohno M, Suzuki M, Nakase H, Suehiro E, Yamase H, Otake H, Morisaki H, Ozawa A, Takahashi S, Otsuka K, Harikae K, Kishi K, Mizuno H, Nakajima H, Ueta H, Nagayama M, Kikuchi M, Yokota H, Shimazu T, Yukioka T; Joint Committee of the Academic Consortium on Emergency Medical Services, Disaster Medical Response Plan during the Tokyo Olympic and Paralympic Games in 2020 (AC2020). *Medicine at mass gatherings: current progress of preparedness of emergency medical services and disaster medical response during 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games from the perspective of the Academic Consortium (AC2020)*. *Acute Med Surg*. 2021 Feb 2;8(1):e626. doi: 10.1002/ams2.626. PMID: 33552526; PMCID: PMC7852170.
  11. Midorikawa H, Aiba M, Lebowitz A, Taguchi T, Shiratori Y, Ogawa T, Takahashi A, Takahashi S, Nemoto K, Arai T, Tachikawa H. Confirming validity of The Fear of COVID-19 Scale in Japanese with a nationwide large-scale sample. *PLoS One*. 2021 Feb 10;16(2):e0246840. doi: 10.1371/journal.pone.0246840. PMID: 33566868.
  12. Shiratori Y, Tachikawa H, Nemoto K, Ide M, Sodeyama N, Tamura M, Takahashi S, Hori T and Arai T1. :Visualizing the Process of Disaster Mental Health Services in the Joso Flood by Network Analyses of Emails. *Tohoku J. Exp. Med.*, 252, 121-131, 2020.
  13. Takahashi S, Manaka K, Hori T, Arai T, Tachikawa H. An Experience of theIbaraki Disaster Psychiatric Assistance Team on the Diamond

- Princess Cruise Ship: Mental Health Issues Induced by COVID-19. *Disaster Med Public Health Prep.* 2020 Aug 12;1-2. doi: 10.1017/dmp.2020.305. Epub ahead of print. PMID: 32782043.
14. Takahashi S, Takagi Y, Fukuo Y, Arai T, Watari M, Tachikawa H. Acute Mental Health Needs Duration during Major Disasters: A Phenomenological Experience of Disaster Psychiatric Assistance Teams (DPATs) in Japan. *Int J Environ Res Public Health.* 2020 Feb 27;17(5). pii: E1530. doi:10.3390/ijerph17051530.
  15. Génereux M, Schluter PJ, Takahashi S, Usami S, Mashino S, Kayano R, Kim Y. Psychosocial Management Before, During, and After Emergencies and Disasters—Results from the Kobe Expert Meeting. *Int J Environ Res Public Health.* 2019 Apr 12;16(8). pii: E1309. doi: 10.3390/ijerph16081309. PubMed PMID:31013679; PubMed Central PMCID: PMC6518049.
  16. Komuro H, Shigemura J, Uchino S, Takahashi S, Nagamine M, Tanichi M, Saito T, Toda H, Kurosawa M, Kubota K, Misumi T, Takahashi S, Nomura S, Shimizu K, Yoshino A, Tanigawa T; Fukushima NEWS Project Collaborators. Longitudinal Factors Associated With Increased Alcohol and Tobacco Use in Fukushima Nuclear Power Plant Workers 32 Months After the Nuclear Disaster: The Fukushima News Project Study. *J Occup Environ Med.* 2019 Jan;61(1):69-74. doi:10.1097/JOM.0000000000001483. Pub Med PMID: 30335679.
  17. Nakanishi M\*, van der Steen JT. National dementia plans to address escalating global palliative care needs. *Palliative Medicine* 2020;34(7):966-967.
  18. Iguchi, A., Yoshii, A., Takita, M., Tsubokura, M., Fukahori, H., & Igarashi, R. (2020). Nurses' perceptions of medical procedures and nursing practices for older patients with non-cancer long-term illness and do-not-attempt-resuscitation orders: A vignette study. *Nurs Open*, 7(4), 1179-1186. doi:10.1002/nop2.495
  19. Hirooka, K., Nakanishi, M., Fukahori, H., & Nishida, A. (2020). Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users. *Geriatr Gerontol Int*, 20(4), 354-359. doi:10.1111/ggi.13860
  20. Kodama, Y., Fukahori, H., Tse, M., & Yamamoto-Mitani, N. (2020). Pain Prevalence, Pain Management, and the Need for Pain Education in Healthcare Undergraduates. *Pain Manag Nurs.* doi:10.1016/j.pmn.2020.09.008
  21. Nasu, K., Konno, R., & Fukahori, H. (2020). End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. *Int J Nurs Pract*, 26(2), e12771. doi:10.1111/ijn.12771
  22. Nasu, K., Sato, K., & Fukahori, H. (2020). Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. *J Adv Nurs*, 76(4), 1009-1018. doi:10.1111/jan.14294
  23. Okumura-Hiroshige, A., Fukahori, H., Yoshioka, S., Nishiyama, M., Takamichi, K., & Kuwata, M. (2020). Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. *Int J Older People Nurs*, 15(3), e12309. doi:10.1111/opn.12309
  24. Takahashi, Z., Yamakawa, M., Nakanishi, M., Fukahori, H., Igarashi, N., Aoyama, M., . . . Miyashita, M. (2021). Defining a good death for people with dementia: A scoping review. *Jpn J Nurs Sci*, e12402. doi:10.1111/jjns.12402
  25. Nishikawa, Y., Fukahori, H., Mizuno, A., & Kwong, J. S.-W. (2021). Cochrane corner: advance care

planning for adults with heart failure. Heart. 2021 Apr;107(8):609-611. doi: 10.1136/heartjnl-2020-318458.

論文発表 (日本語論文)

1. 小川朝生. がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019 年版. 精神医学. 2020;62(5):692-7.
2. 小川朝生. 患者さんの休息が障害されるときにはなにが起こっているのか～その原因と症状マネジメント～. がん看護. 2020;25(5):497-502.
3. 小川朝生. がん薬物療法による認知機能障害と対策. 癌と化学療法. 2020;47(6):905-12.
4. 小川朝生. サイコオンコロジー分野の家族ケア. 緩和ケア. 2020;30Suppl:009-14.
5. 小川朝生. 精神科医と心理士の違い. 緩和ケア. 2020;30(2):102-8.
6. 小川朝生. 知っておきたい非がん患者の緩和ケア第6回認知症. 月刊 薬事. 2020;62(4):93-102.
7. 小川朝生. 適切なアセスメントとケアで予防できる 医療者が知っておくべきせん妄への対応. 病院安全教育. 2020;7(4):59-62.
8. 小川朝生. ACP とは何か 患者の意思の実現を考える本人目線での支援の取り組み. 最新医療経営 PHASE3. 2020;428(4):16-9.
9. 小林清香, 平井啓, 谷向仁, 小川朝生, 原田恵理, 藤野遼平, 立石清一郎, 足立浩祥. 身体疾患による休職体験者における職場ストレスと関連要因. 総合病院精神医学会. 2020;32(4):403-9.
10. 小川朝生. 非がん疾患に対する緩和ケア 疾患別の特性 認知症. 内科. 2021;127(2):245-9.
11. 小川朝生. せん妄と転倒. 日本転倒予防学会誌. 2021;7(3):19-21.
12. 小川朝生. せん妄対策の進歩. 老年内科. 2021;3(3):270-7.
13. 平井啓・山村麻予・鈴木那納実・小川朝生:高齢患者のがん治療方針における意思決定困難に関する要因に関する探索的研究—医師に対するインタビューから—, Palliative Care Research, 2021. 16(1), 27-34.
14. 高橋 晶: コロナが変える社会とところろ総論 新型コロナウイルス感染症が社会に与える影響とストレス:こころの科学(0912-0734)215号 Page16-23(2021.01)
15. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶, 小倉 絹子, 中村 優子 変動するアルツハイマー型認知症のBPSDに漢方薬が有効であった1症例:脳神経外科と漢方(2189-5562)6巻 Page33-38(2020.09)
16. 高橋 晶:【大災害時に精神科医は何をしたらよいか】災害精神医学保健領域において、支援を活かすために必要なこと:精神科(1347-4790)37巻5号 Page503-510(2020.11)
17. 高木 善史, 太刀川 弘和, 高橋 晶, 福生 泰久, 新井 哲明, 渡 路子:
18. 災害急性期に継続的な支援を要する精神障害の特徴 熊本地震における災害派遣精神医療チーム(DPAT)の活動データから:精神科救急(1345-7837)23巻 Page68-76(2020.09)
19. 高橋 晶:【うつ病と認知症】レビー小体型認知症の初期症状:Pharma Medica(0289-5803)38巻8号 Page29-33(2020.08)
20. 重村 淳, 高橋 晶, 大江 美佐里, 黒澤 美枝:COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて:トラウマティック・ストレス(1348-0944)18巻1号 Page71-79(2020.06)
21. 高橋 晶:新型コロナウイルスへの精神面の対応に向けて COVID-19 感染症に伴う精神, 心理, 公衆衛生・産業衛生的対応について:精神医学(0488-1281)62巻6号 Page897-910(2020.06)
22. 高橋 晶:【災害の精神医学】災害とボランティア:最新精神医学(1342-4300)25巻1号 Page29-37(2020.01)
23. 高橋 晶:【困っている“あなた”に届く認知症診療】認知症診療 case by case Lewy 小体型認知症:総合診療(2188-8051)29巻12号 Page1477-1481(2019.12)
24. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶:認知症に伴う諸症状の改善に漢方薬が奏効した1症例:脳神経外科と漢方(2189-5562)5巻 Page29-33(2019.10)
25. 高橋 晶:【災害被災地への長期支援～

- その意義と課題】「水害の中長期復興」平成27年9月関東・東北豪雨から3年経過した常総市で起きていること・水害を含めた災害後の中長期の対応：精神科救急(1345-7837)22巻 Page6-12(2019.08)
26. 加藤 士郎, 玉野 雅裕, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶, 松崎 靖司: 中高年女性 50 例の高血圧治療に併用して有効であった漢方薬の解析: 漢方と最新治療 28 巻 1 号 Page69-76(2019.02)
  27. 高橋 晶:【いまはこうする!急性期・一般病院の認知症対応】一般病院でのBPSDの予防と対応:薬事(0016-5980)61巻3号 Page459-464(2019.02)
  28. 福生 泰久, 太刀川 弘和, 高橋 晶, 高木 善史, 吉田 航, 小見 めぐみ, 新井 哲明, 渡 路子:平成28年(2016年)熊本地震におけるDPAT支援の概要 災害時精神保健医療情報支援システム(DMHSS)の集計データから:精神科救急(1345-7837)21巻 Page86-94(2018.09)
  29. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶:不眠、不安が顕著な認知症に加味帰脾湯が有効であった1例:脳神経外科と漢方(2189-5562)4巻 Page28-33(2018.09)
  30. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶:認知症診療におけるQOL、生命予後改善を見据えた漢方治療の有効性:脳神経外科と漢方(2189-5562)3巻 Page57-62(2017.09)
  31. 森陽子, 深堀浩樹, (2020). 訪問看護事業所による就業時の教育的支援への臨床経験を持つ新人訪問看護師の認識. 日本看護評価学会誌, 10(1), 31-39.
  32. 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン ヘルスサービス研究における混合研究法による研究の質. 看護研究, 53(2), 118-120.
  33. 真志田祐理子, 大河原啓文, 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン CONSORT-EHEALTH Web ベースおよびモバイル端末による保健介入の評価レポートの改善および標準化. 看護研究, 53(2), 144-145.
  34. 那須佳津美, 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン ENTREQ 質的研究の統合の報告における透明性を高める ENTREQ 声明. 看護研究, 53(2), 98-99.
  35. 本田順子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン 組織のケーススタディの方法論的フレームワークの開発 迅速レビューとコンセンサス形成プロセス. 看護研究, 53(2), 150-151.
  36. 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹. (2020). Explanation and elaboration paper(E&E) for the Guideline for Reporting Evidence-based practice Educational interventions and Teaching(GREET) 2016 概説:根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン(GREET)2016. 看護研究, 53(3), 222-227.
  37. 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン GREET 根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン(GREET). 看護研究, 53(2), 152-153.
  38. 廣岡佳代, 松本佐知子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン StaRI 実装研究の報告基準に関するStaRI 声明. 看護研究, 53(2), 116-117.
- 学会発表
1. 小川朝生, 高齢者心不全における意思決定支援. 第24回日本心不全学会学術集会(シンポジウム); 2020/10/15; Web開催.
  2. 小川朝生, せん妄への対応. 日本転倒予防学会第7回学術集会(転倒予防指導士セミナー); 2020/10/10-25; Web開催.
  3. 谷向仁, 小川朝生, 急性期病院における認知症診療の課題 一実態調査から見えてきたこと一. 第116回日本精神神経学会学術総会(シンポジウム); 2020/9/28-29; Web開催.
  4. 平井 啓 足立浩祥, 村中 直人, 小林 清香, 小川朝生, 谷向 仁, 谷口 敏淳,

- 山村 麻予, 原田 恵理, 藤野 遼平, 堀井 健司, 桜井 なおみ, 立石 清一郎, 治療と職業生活の両立支援における高ストレス状態の測定ツールとしての脳疲労尺度の開発. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web 開催.
5. 前川 智子 中村久実, 山中 圭子, 田村 貴恵, 服部 幸子, 石井 知子, 岩爪 美穂, 笠川 友恵, 幸喜 佐央里, 河嶋 夏來, 平野 勇太, 榎戸 正則, 岩田 有正, 小川 朝生, がん専門病院における高齢者総合的機能評価の傾向と今後の課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (ポスター); 2020/8/9、10; Web 開催.
  6. 平野勇太、前川智子、榎戸正則、岩田有正、栗山尚子、菅澤勝幸、關本翌子、小川朝生, o DELTA プログラムによる知識の獲得と行動変容に関する教育効果の検討. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (ポスター); 2020/8/9、10; Web 開催.
  7. 柘津晶子、岩田有正、平野勇太、萩原莉穂、榎戸正則、小川朝生, 発達障害傾向のあるがん患者に対する子どもへのコミュニケーション支援における心理職の介入. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (ポスター); 2020/8/9、10; Web 開催.
  8. 岩田有正、榎戸正則、小川朝生, 転移性脳腫瘍による症候性てんかんに対するレベチラセタム単剤投与の有効性と安全性に関する後ろ向き検討. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (ポスター); 2020/8/9、10; Web 開催.
  9. 小川朝生, わが国における非がん領域の緩和ケアの課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (国際シンポジウム); 2020/8/9、10; Web 開催.
  10. 小川朝生、天野慎介、藤井大輔、田中麻衣、阿萬和弘, ピアサポートの現状と実践に向けた取り組み. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (共催セミナー); 2020/8/9、10; Web 開催.
  11. 小川朝生, 認知症の緩和ケア 急性期医療での現状と課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020 (シンポジウム); 2020/8/9、10; Web 開催.
  12. 小川朝生, 高齢者のがん診療における支援. 第 36 回日本ストレス学会総会; 2020/10/24-25; Web 開催.
  13. 小川朝生, サイコオンコロジー・コアコンピテンシー作成の経験. 第 33 回日本総合病院精神医学会総会(シンポジウム) 2020/11/20. Web 開催.
  14. 中村菜々子, 山村麻予, 藤野遼平, 平井啓, 足立浩祥, 本岡寛子, 谷口敏淳, 谷向仁: メンタルヘルス不調状態への受診勧奨メッセージの違いが受診意図に及ぼす影響〜不調理由の説明とフレーミングの組み合わせの観点から〜. 第 27 回行動医学会学術総会 2020. 12. 12 オンライン
  15. 平井啓, 足立浩祥, 立石清一郎, 谷向仁, 小林清香, 山村麻予: 脳疲労尺度におけるプレゼンティズムと高ストレス状態の関連について〜妥当性と利用方法の検討〜. 第 27 回行動医学会学術総会 2020. 12. 11 オンライン
  16. 平井 啓: 新型コロナウイルスに対する感染予防行動生起にあたる脅威性認知の影響について. 日本社会心理学会第 61 回大会: 2020. 11. 7-8 オンライン
  17. 山村麻予, 平井啓, 小川朝生, 鈴木那納実: 医療者を対象とした意思決定支援に関する教育プログラムの効果. 日本教育心理学会第 62 回総会, 2020 .9. 19-21 オンライン
  18. 管生 聖子, 平井 啓: 母親の子育不適応予測のための包括的な心理社会的要因構造化の試み. 日本心理学会第 84 回, 2020. 9. 8-10. オンライン
  19. 平井 啓, 山村 麻予, 藤野 遼平, 中村 菜々子, 本岡 寛子, 足立 浩祥, 谷口 敏, 谷向 仁: メンタルヘルス受診意思決定モデルの行動経済学的検討. 日本心理学会第 84 回, 2020. 9. 8-10. オンライン
  20. 平井啓, 小林清香, 桜井なおみ, 浅野健一郎, 上木誠吾, 藤野遼平, 堀井健司, 原田恵理, 足立浩祥, 立石清一郎: 治療と職業生活の両立におけるストレス構造分析—企業支援者インタビュー調査—. 緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020. 8. 9-10. オンライン
  21. 平井啓, 足立浩祥, 村中直人, 小林清香, 小川朝生, 谷向仁, 谷口敏淳, 山村麻予, 原田恵理, 藤野遼平, 堀井健司, 桜井なおみ, 立石清一郎: 治療と職業生活の両立支援



- における高ストレス状態の測定ツールとしての脳疲労尺度の開発. 緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020. 8. 9-10. オンライン
22. 小林清香, 平井 啓, 立石清一郎, 桜井なおみ, 足立浩祥, 谷口敏淳, 原田恵理: 治療と職業生活の両立におけるストレス構造分析—支援者インタビュー調査—. 緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020. 8. 9-10. オンライン
  23. 桜井なおみ, 平井啓, 原田恵理: 働くがん患者の心と身体の変化に関する研究. 緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020. 8. 9-10. オンライン
  24. 高橋 晶: 特別講演 新型コロナウイルスへの精神的対応、今まで、そして、これから起こること～感染症と災害精神医学～. 第1回 DPAT Area Meeting. 2021年3月5日. Web開催
  25. 高橋 晶: シンポジウム COVID-19流行下の社会変化と精神保健医療の対応. COVID-19に伴う精神医療の現場で起きている課題と支援者支援. 一般社団法人日本社会精神医学会・Meiji Seika ファルマ株式会社 共催 多職種のための精神医学セミナー. Web開催. 2021年1月23日
  26. 高橋 晶: シンポジウム COVID-19から我々が学んだこと. COVID-19の前と後、感染症が及ぼす社会、精神面への変化について. 総合精神病院医学会. 2020年11月20日 Web開催
  27. 高橋 晶: シンポジウム 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行や人為災害への精神的な支援とその課題. 総合精神病院医学会. 2020年11月20日. Web開催
  28. 高橋 晶: シンポジウム 2019年台風15号、19号における水害支援 茨城県の対応と課題、他県支援と自県支援について. 総合精神病院医学会. 2020年11月20日. Web開催
  29. 高橋 晶, 太刀川弘和 シンポジウム 災害時の精神保健医療福祉活動マニュアル試案について 第79回日本公衆衛生学会総会 Web開催 2020年10月20日-22日
  30. 高橋 晶: シンポジウム自然災害への備えと対応～BCPと受援・支援～. 局地～広域の自然災害への精神支援体制の現状と展望. 日本精神神経学会. Web開催. 2020年9月28日～30日
  31. 高橋 晶: シンポジウム COVID-19(新型コロナウイルス感染症)がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える. COVID-19に伴う精神医療の現場で起きている課題と支援者支援. 日本精神神経学会. Web開催. 2020年9月28日～30日
  32. 高橋 晶: シンポジウム 人為災害における精神保健医療上の課題: 東京オリンピック・パラリンピックに向けて. 東京オリンピックを控えて、精神科に求められる事. 日本精神神経学会 Web開催. 2020年9月28日～30日
  33. 高橋 晶: 指定発言 災害時・後の多職種連携教育の例. シンポジウム 災害時の多職種連携とこころのトラウマ対応. 第19回日本トラウマティックストレス学会. Web開催 2020年9月21日.
  34. 高橋 晶: 災害領域におけるトラウマ関連疾患のアセスメント. シンポジウム 現場での実践を目指したトラウマ関連疾患のアセスメント. 第19回日本トラウマティックストレス学会. Web開催. 2020年9月21日
  35. van der Steen JT\*, Azizi B, Nakanishi M, Shinan-Altman S, Mehr DR, Radbruch L, Gaertner J, Werner P, Achterberg WP, Tilburgs B, Smaling HJA. OD04-01-05 - Cross-cultural acceptability of interventions at the end of life in dementia: video vignette study design and pilot evaluation (ERC CONT-END WP1). Alzheimer's Association International Conference 2020 (2020.07.30, the Netherlands)
  36. 村上寿子, 皆吉泰知, 田村貴子, 廣山奈津子, 深堀浩樹. (2020). HCUにおける患者が不快に感じる「音」の内容調査. 共済医報, 69(Suppl.), 59.
  37. 白川翔, 管野貴仁, 矢口秀穂, 塚田真由美, 廣山奈津子, 深堀浩樹. (2020). 術前患者の不安軽減に関する質的研究を活用した教育的介入の影響. 共済医報, 69(Suppl.), 60.
  38. 野中瑞穂, 青山真帆, 中西三春, 山川みやえ, 深堀浩樹, 佐藤一樹, 高橋在也, 長江弘子, 森田達也, 坂井志麻, 宮下光令. (2020). 認知症の Good Death とは

何か? 遺族・医師・看護師・介護職の認識に関する Web 調査. Palliative Care Research, 15(Suppl.), S208.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。